

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2296300060		
法人名	株式会社健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホームたんより かわせみユニット		
所在地	静岡県周智郡森町草ヶ谷212-1		
自己評価作成日	令和3年5月10日	評価結果市町村受理日	令和3年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2296300060-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2296300060-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年5月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

昨年に引き続き先の見えないコロナ禍で、活動に制限がある現状であり、職員の不安やストレスも常に続いています。今できることを行い、出来るだけ質の高いサービスを提供できるよう努力しています。ケアが功を奏しているのか、入居者の体調変化が以前に比べて少なくなり、この一年は看取りもなく安定されています。入居者の観察を行い、変化があれば早期に受診等対応することが軌道に乗ってきたためかと思えます。外出・面会制限など、入居者のストレスは依然ありますが、今後は今まで行ってきたコロナウイルス感染予防対策と共に、ワクチン接種に対応し、家族やなじみの方とのコミュニケーションが図れるよう支援していきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「たんより通信」と毎日のブログ配信で、コロナ禍で面会ができにくい中であっても「情報を沢山もらえて安心」と家族に評価されている事業所です。特に「たんより通信は」、職員が子どもの頃の思い出や日常の思いをコメントしており、家族からは「親しみが湧く」と好評です。また昨年度、課題とした「看取りの準備」は物置きだったスペースを家族が寝泊まりできるよう整備しています。もう1つの案件であった「災害対策」は、職員で2回程災害伝言ダイヤルの試用をおこない、「案外簡単だったので早くやればよかった」との意見にも促され、今後は家族も交えて実施の予定としていて、課題解決への取組みが実直に図られています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念としては『やさしさ・安心・安寧』を掲げています。また、毎年職員で話し合いキャッチフレーズを作成しています。今年度は『あなたの笑顔と、私の笑顔で、安心できる毎日を！』とし、常に見える場所に掲げています。	理念を実現するためにも、理念を具現化させたキャッチフレーズを年1回職員間で作るようにしており、12月の職員会議で話し合い、翌1月から実施しています。自分たちで決めたことなので、スムーズに浸透しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止のため、引き続き面会制限は継続しており、依然運営推進会議も開催できない状況ですが、昨年同様たんより通信の配布は継続するなど、出来ることを行っています。	ここ数年、町内の催し物に積極的に参加してきたことが功を奏して、「コロナで大変だね」との温かな言葉とともに、野菜や不要となった食器、タオルなどが地域から寄贈されています。「畑から好きなだけ持って行って」と、春菊が採り放題という日もありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍となってからは、人が集まることができず、認知症カフェ開催等の用途はたっていません。今後コロナが落ち着くようであれば、いつでも再開できる準備はしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も昨年に引き続き、コロナ禍のため、運営推進会議の開催ができておりません。しかし、ホーム内の会議をもとに現場の状況を議事録として、地域や家族へ報告しています。	コロナ禍のため運営推進会議は「集まる」ことをやめ、ホーム会議(職員会議)の議事録をメンバーに郵送して電話、FAXにて意見を仰ぐという書面開催で代替しており、メンバーの町内会長や家族からは情報提供や要望などが挙がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	森町役場・地域包括支援センターへは、コロナ禍において伺う機会が減りましたが、直接お会いしたり集まることはできないものの、電話連絡やzoomでの会議参加などにて情報交換を行っています。	電話でのやりとりやオンライン会議等で情報交換をおこない、窓口に気軽に立ち寄れなくなった補完としています。(5)に記述の事業所の不手際については近距離とはいえず来所のうえ具体的に指導・助言を受けるに至り、常に真摯な対応を得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言に基づき、定期的に拘束廃止委員会を開催し、職員に周知しています。ポスターは全職員が見るトイレに掲げ、常に意識しています。床センサーやドアセンサーは必要最小限の使用とし、頻回に巡回するなど対応しています。	「拘束廃止委員会」は3ヶ月毎に開催、センサーマット使用者の状態や職員のスピーチロックについて定期的に確認されています。ただし、家族との合意形成と3要件の書面がないまま職員の独断で実行した例が1件あり、知識研鑽とともに管理体制の見直しが図られています。	職員の独断専行の件は結果として当事者がボタンを引きちぎった為数日で解除、発見に至ってはいますが、今後は「指示命令系統に従う」「職員間で注意しあえる」等の職場ルールの徹底を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護施設や介護関連の報道等にも留意し、随時カンファレンスを行い検討しています。拘束とともに勉強会を行うようにし、なぜそのようなことが起きるのか考え、共有しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の方が成年後見制度の対象者です。成年後見人は弁護士であり、随時連絡を取り合っています。家族背景や状況等を把握し、職員に周知して対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、できるだけわかりやすく丁寧に説明することを心掛けています。入居前はご本人だけでなく、家族の心配や不安も大きいと思いますが、コロナ禍にて施設内に入ることが出来ない状況であるため、より一層可能な限り心配・不安を解消し入居されるよう対応しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者はいつでも職員に対し意見・要望が表出できるよう、職員には訴えを傾聴するよう指導しています。意見や要望については、苦情報告書に記載し、対応を職員に周知します。家族は面会時に情報交換を行い、指摘等があれば速やかに対応しています。	家族アンケートの意見はここ数年、年々内容が向上しており、家族の満足が膨らんでいることが伝わります。お茶農家からは新茶が、また「野菜づくりが趣味」との家族からはキャベツ・大根・里芋・じゃがいも、季節の産物が届いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日勤業務は朝礼から始まります。申し送りとともに必要時カンファレンスも行い、職員から意見や提案を受ける場としています。また月に1回、密を避けて職員会議を開催し、意見交換の場としています。	業務連絡は朝礼や職員会議で過不足なく進められており、また「たんより通信」では各々の生い立ちや現在の暮らしがわかることもあって、大半の職員はお互いのことを理解して、チームシップを培っています。個別に管理者への相談も入っています。	現場では声の大きい人の考えに引っ張られてしまう傾向があるため、一人ひとりの自律へ向けた研修プログラムや管理者の片腕育成も視野に入れていくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、賞与時に職員個人の半年ごとの反省と次期の目標設定の機会を設け、管理者として評価を行っています。長引くコロナ禍においていかにモチベーションを保てているか、また能力向上を目指すか、各職員の能力や人柄に合わせた声掛けや業務配置を		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議においては毎月勉強会を行い、日々の業務に活かせるようにしています。現時点では外部勉強会に参加することが難しいため、ホーム内で各職員が持ち回りで講師となり、互いに学習できる機会としています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ町内に小規模多機能ホームがあり、交流だけでなく入居者の紹介もいただいています。またこのコロナ禍という問題の共有を、公立森町病院看護部提唱のもと、森町内の各施設が意見交換する場の提供があり、問題共有しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	より施設の見学時に不安や要望などを確認し、把握した上で入居申し込みや事前訪問を行い、入居環境を整えるようにしています。コロナ禍であり以前のように自由に施設内に入ることが出来ない状況であるため、できるだけ本人や家族・関係施設と情報を共有し、対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろんですが、家族はどう考えているのか、どうしたいのか、心配や不安、要望等を傾聴し、対応するようにします。現状では実際に施設内に入って生活を見ていただくことが難しいため、出来るだけコミュニケーションをとり、施設生活に馴染んでいただけるような援助につなげています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・ケアマネ・病院職員・支援員・利用施設職員らと連携を図り、情報収集した上で入居判定会を行い、職員間でも検討しながら対応の仕方を見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームであるため、入居者の残存機能を生かし、その方ができることはやっていただくようにしています。各入居者に見合った役割分担を誘導し、職員と一緒に生活する『家族』のような関係で、見守りながら生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と、入居後も以前からの関係性を継続できるようにしています。面会制限はあるものの発熱や体調不良等がないようであれば、家族の希望があれば面会は短時間ですが実施しています。家族来所時は面会がなくとも必ず情報交換・コミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各入居者の思い出話や、過去の話は傾聴するようにしています。現在はコロナ禍であり自由にならないこともありますが、できるだけ安全を確認した上で面会の場を設けたり、電話・ビデオ通話等を活用し、関係が途切れないように努めています。	「何かあるといけないから会わない」という家族もいる一方で、電子機器に堪能で「リモート面会したい」と申し入れがあり、管理者に方法を指南くださる家族もあり、面会は要望に応じて工夫するとともに、個別に体調報告と写真を送ることで家族の安心につなげています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当ホームは2ユニットですが、互いのユニット間を自由に行き来できる構造となっているため、ユニットを越えての入居者間の関係性があります。入居者が自由に空間を利用し、孤立することなく過ごされています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの入居者の方は看取りまで対応させていただいています。看取りでの退去の場合はデスカンファレンスを行い、残された家族へ職員からのメッセージを届けています。ただ、この一年は入居者の体調が安定しており、看取りがなく経過しました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症であることを踏まえて、入居者一人ひとりの思いや希望・意向は訴えがあった場合だけでなく、雰囲気やしぐさ、何か訴えがありそうな場合は時間をかけて対応し、聴きとるようにします。必要時カンファレンスを行い、情報共有し対応します。	最近散歩ができていないことを課題としてはいますが、散歩の他にも入浴の場面で1対1となれるため、意向を聞き取ることができています。また家族が利用者の好みとする菓子類を代わるがわる届けてくれるため、甘いおやつで饒舌となることにも助けられています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や経過・人物像等の情報を収集し、職員間で共有します。随時カンファレンスにて周知し、対応するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にはどのような生活をしていたのか、それを踏まえて当ホームではどう過ごされるのが心地良いのか、検討します。生活状況を介護記録に残し、またカンファレンスにて職員間で共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の訴えや生活状況・家族の意見や希望をアセスメントし、カンファレンスを行いその時に合った介護計画を立案しています。運営推進会議は開催できず家族が出席する会議の場はありませんが、来所時や電話において、家族の意見を必ず聞くようにしています。	介護計画書が軸となって業務が推進されることとが原則であることから、「その人らしさ」が浮彫りとなるようにあってほしいというのが管理者の思いですが、介護計画書にやや一辺倒な面がみられます。職員本位の介護となることを防ぐためにも、一度見直しが必要です。	現状、アセスメントが不十分ではないかということが介護計画書から覗えます。重度であったり、介護に工夫が要る利用者から順次1名ずつセンター方式等で多面的な検討があることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の身体的・精神的状況や様子・状態、生活状況を介護記録として残しており、その情報も含めカンファレンスを行いながら介護計画を見直し、日々のケアを実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、予定外のことであったとしてもできるだけ希望に沿った対応をするよう心掛けています。食事の場所を変更したり、ドライブに出かけたり、イベント開催など、コロナ対策をしながら対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではありますが、近隣住民の方やボランティアさん、地域役員の方とは最低限の情報交換をし、コミュニケーションを図っています。ボランティアさんは季節ごとに畑の手入れをして下さり、収穫を調理して入居者に提供するなど、助けていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	公立森町病院の院長が主治医となり、月に一度の定期訪問診療を行っています。急な体調の変化や怪我等に関しては、病院の在宅医療支援室職員が対応してくれ、必要時に臨時往診や病院受診がスムーズにできる体制は変わっていません。	管理者が看護師であるとともに、協力医による訪問診療が月1回のほか、急な体調変化も病院の在宅医療支援室が対応下さり、医療連携に厚みがあります。また、待合では利用者のマスクのつけ忘れに気づいて手持ちを譲ってもらえる等、地域のやさしさにも支えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるため、介護職員と連携し病状管理や状態変化に対応しています。24時間体制で電話待機しており、必要時病院へ連絡し、協力を依頼します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前より森町病院と情報交換を行っており、入院が決定した場合は在宅医療支援室職員と連携し、情報伝達を行います。入院後も病院と情報交換を継続し、面談にも参加させていただきます。早期退院となるよう調整します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に『重症化に係る指針』を説明し、入居後初めての定期訪問診療には基本的に家族に同席してもらい、急変時の対応や看取り希望等について医師と共に確認します。状態変化に応じて希望も変化する場合があるため、随時対応します。	利用者の変化を注視することを管理者が重ねて伝えてきたことが成果に実り、早めに受診につながる等の速やかな職員対応が定着してきたためか、利用者の体調が以前に比べ安定しており、この一年は看取りもありませんでした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に関しては、事故報告書や介護記録をもとに事例検討を行います。いざという時に職員が何があってもできるだけ落ち着いて対応できるよう、実践能力が発揮できるよう、勉強会も行います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練において、防火・防災・水害訓練を行い、避難する体制を職員と入居者共に確認し、身につけるようにします。実践だけでなく、様々な状況が想定できる机上訓練も行うようにしました。	コロナ禍の影響から防災訓練も内部中心ではあるものの、年2回の法定訓練実施を順守しています。災害伝言ダイヤルの試用をおこない、「案外簡単だったので早くやればよかった」との意見もでて、今後は家族も交えて実施の予定としています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても、入居者一人ひとりの人格を尊重することは基本であり、どのような症状があっても、尊厳を守る必要があるということを忘れず、言葉遣いや態度に気をつけるよう、職員に定期的に周知しています。	トイレやお風呂でのエチケットやマナーはどの職員も実践できており、スピーチロックの勉強会も重ね、尊厳やプライバシーに係る言葉遣いにも心配はありません。特に「ナースコールへ動きが早くなった」ことは、管理者が職員の成長を感じる点です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの気持ち・思いや考え方を尊重し、表出していただけるような状況となるよう、心掛けています。職員が決定するのではなく、できるだけ本人が自己決定できるような生活支援をします。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月間予定や週間・一日の予定はありますが、状況や状態により、無理強いすることなく本人のペースで生活していただけるよう『臨機応変に対応』ということを基本にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みや趣味を把握し、髪形や化粧品、服装などできるだけ本人の趣向に沿えるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	生活上の一番の楽しみともいえる食事は、職員も検食を行い、味についての意見を業者に発信しています。味や食材の好みには可能な限り個々に対応します。準備・片付けはできる入居者と職員が一緒に行っています。	食中毒防止を目的に半調理品が業者から搬入され、職員はご飯と味噌汁を用意するという形態での食事です。近隣から野菜が届くと一品増やしたり、利用者がご機嫌で手伝ってくださる日もあります。誕生会ではカステラに皆でデコレーションして愉しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理や検査データを踏まえ、同じメニュー提供でも個々に対応するようにしています。特に食欲減退時は、可能な限り常識にとらわれず食べたいもの、食べられるものを提供し、栄養管理につなげています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚染は、肺炎や心疾患等の疾病につながる危険もあるため、毎食後口腔ケアを行っています。森町病院口腔外科や、開業医とも連携しているため、必要時は訪問診療を依頼し、口腔ケアに努めています。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後の排泄状況を把握することが基本であり、排泄パターンや回数・量をチェックし、トイレで自力排泄ができるよう、例えば一見排泄に繋がらない情報でも、関連付けて検討するようにします。	トイレまでの歩行に介助が必要で、体調によっては立あがりも儘ならない利用者には職員2名での介助とし、「できるだけトイレで」を励行しています。またパット等の消耗品については値段の比較や回数軽減の方策を検討して、家族の経済的負担にも貢献しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の処方のみならず、乳製品やオリーブオイル、オリゴ糖など、自然に排便ができるよう対応しています。便秘薬に関しても薬剤師と相談し、個々に合わせた処方してもらいます。また全身運動をレクリエーションに取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては、予定は組みますがあくまでも予定であり、入居者本人の希望を優先して対応しています。現在入浴拒否の方はいませんが、時には違うユニットの浴室で入浴するなど、気分転換も考慮しています。	湯はかけ流しのため、一番風呂の人のみとなりますが、好みの香りを選んでもらうようにしてもらい、冬季は「森林」と「柑橘」2種類の浴剤を準備しています。着替えては状態点検もおこない、乳房や腹の下にある湿疹、白癬や帯状疱疹等初期の段階で発見することも叶っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の予定はあるものの、一人ひとり生活リズムが違うため、就寝・起床・食事等、強制はせずそれぞれのペースに合わせるようにしています。眠れない方は職員と一緒にお茶をしたり、夜食や間食にラーメンを提供するなど、臨機応変に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	森町病院の薬剤師が訪問薬剤指導に入ってくれており、医師・薬剤師の指導のもと、管理しています。体調の変化があればすぐに連絡し、医師に指示確認してもらうなど、連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や食事の準備・後片付け、お盆拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑仕事など、各入居者の得意分野を活かして引き続き役割分担を行っています。やりがいを感じ、楽しみや役割として実感していただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時はテラスや玄関先に出る機会を持ち、外気に触れていただきます。安全を考慮した上での外出は、その時々で楽しめる場所を調べ、感染対策の上でドライブなどに出掛けています。	寒さやコロナ等の影響もあって正月を超えたあたりから散歩の実施が格段に減っています。また一時期コロナ対策で盛り上がったかに見えた「降りないドライブ」も最近はおこなわれず、外浴に留まっています。	ワクチン接種の完了をめぐりに徐々に動くことができるよう、人との接触を極力控えた外出企画を立案しておくことを期待します。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりにおいて小口現金を預かり、管理しています。外出して買い物ということが現状は難しいのですが、可能になれば以前のように個別に外食や買い物に出掛ける支援をしたいと思っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話についてはもともと適宜希望があれば対応していましたが、コロナ禍で特に他県の家族が面会できない状況もあり、以前より増えています。可能な方はビデオ通話も対応します。家族からのお手紙も届き、入居者は喜ばれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員目線ではなく、入居者や家族の意見を取り入れるようにしています。例えば電気も全部点けるのではなく、明るすぎないように配慮して点ける、非常灯が不快な入居者には職員が見える程度に隠すなど工夫し、リラックスできるように心掛けています。	玄関のみで帰らなければならない家族に配慮して、玄関先には利用者の様子が伝わる写真を大きく貼りだしています。また衛生面については、「看護・介護施設代表者がつながる会」を通じて派遣してもらった看護師から直接指導を受け、適切な管理となるよう図っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの共通スペースで共同で過ごす時間が多いです。ホールが広めであるため、仲の良い方たちが話をしたり、ある人はテレビを見たり、ぬり絵をしたり、カルタをしたり、また自室で昼寝をするなど、自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれが使い慣れた馴染みのものを持参され、ホームでの生活が違和感のないようにしています。クリスチャンの方の居室には、現在コロナ禍で教会に行くことが出来ませんが、常に枕元に聖書が置かれています。	ふらつきがでて筆筒の角に頭をぶつけてしまうリスクが危ぶまれたため、共用空間に筆筒を移動した例もあり、居室内でのリスクについて常に検討、見直しをおこなっています。面会できないことで、家族や孫の写真が届いていますが、本人は余り意に介していない点は残念です。	共用空間に移動した筆筒には地震対策のストッパーを取り付けることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者はそれぞれ理解度に差があるため、場所の表記をしたり、職員が誘導する、また目印を付けるなどし、できるだけ不安の無いようにしています。無駄なものは排除し、安全に生活できる場を心掛けています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2296300060		
法人名	株式会社健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホームたんより さざんかユニット		
所在地	静岡県周智郡森町草ケ谷212-1		
自己評価作成日	令和3年5月10日	評価結果市町村受理日	令和3年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2296300060-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2296300060-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年5月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

昨年に引き続き先の見えないコロナ禍で、活動に制限がある現状であり、職員の不安やストレスも常に続いています。今できることを行い、出来るだけ質の高いサービスを提供できるよう努力しています。ケアが功を奏しているのか、入居者の体調変化が以前に比べて少なくなり、この一年は看取りもなく安定されています。入居者の観察を行い、変化があれば早期に受診等対応することが軌道に乗ってきたためかと思えます。外出・面会制限など、入居者のストレスは依然ありますが、今後は今まで行ってきたコロナウイルス感染予防対策と共に、ワクチン接種に対応し、家族やなじみの方とのコミュニケーションが図れるよう支援していきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「たんより通信」と毎日のブログ配信で、コロナ禍で面会ができにくい中であっても「情報を沢山もらえて安心」と家族に評価されている事業所です。特に「たんより通信は」、職員が子どもの頃の思い出や日常の思いをコメントしており、家族からは「親しみが湧く」と好評です。また昨年度、課題とした「看取りの準備」は物置きだったスペースを家族が寝泊まりできるよう整備しています。もう1つの案件であった「災害対策」は、職員で2回程災害伝言ダイヤルの試用をおこない、「案外簡単だったので早くやればよかった」との意見にも促され、今後は家族も交えて実施の予定としていて、課題解決への取組みが実直に図られています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念としては『やさしさ・安心・安寧』を掲げています。また、毎年職員で話し合いキャッチフレーズを作成しています。今年度は『あなたの笑顔と、私の笑顔で、安心できる毎日を！』とし、常に見える場所に掲げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止のため、引き続き面会制限は継続しており、依然運営推進会議も開催できない状況ですが、昨年同様たんより通信の配布は継続するなど、出来ることを行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍となってからは、人が集まることができず、認知症カフェ開催等の目はたつていません。今後コロナが落ち着くようであれば、いつでも再開できる準備はしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も昨年に引き続き、コロナ禍のため、運営推進会議の開催ができておりません。しかし、ホーム内の会議をもとに現場の状況を議事録として、地域や家族へ報告しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	森町役場・地域包括支援センターへは、コロナ禍において伺う機会は減りましたが、直接お会いしたり集まることはできないものの、電話連絡やzoomでの会議参加などにて情報交換を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言に基づき、定期的に拘束廃止委員会を開催し、職員に周知しています。ポスターは全職員が見るトイレに掲げ、常に意識しています。床センサーやドアセンサーは必要最小限の使用とし、頻回に巡回するなど対応しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護施設や介護関連の報道等にも留意し、随時カンファレンスを行い検討しています。拘束とともに勉強会を行うようにし、なぜそのようなことが起きるのか考え、共有しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の方が成年後見制度の対象者です。成年後見人は弁護士であり、随時連絡を取り合っています。家族背景や状況等を把握し、職員に周知して対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、できるだけわかりやすく丁寧に説明することを心掛けています。入居前はご本人だけでなく、家族の心配や不安も大きいと思いますが、コロナ禍にて施設内に入ることが出来ない状況であるため、より一層可能な限り心配・不安を解消し入居されるよう対応しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者はいつでも職員に対し意見・要望が表出できるよう、職員には訴えを傾聴するよう指導しています。意見や要望については、苦情報告書に記載し、対応を職員に周知します。家族は面会時に情報交換を行い、指摘等があれば速やかに対応しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日勤業務は朝礼から始まります。申し送りとともに必要時カンファレンスも行い、職員から意見や提案を受ける場としています。また月に1回、密を避けて職員会議を開催し、意見交換の場としています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、賞与時に職員個人の半年ごとの反省と次期の目標設定の機会を設け、管理者として評価を行っています。長引くコロナ禍においていかにモチベーションを保てているか、また能力向上を目指せるか、各職員の能力や人柄に合わせた声掛けや業務配置を		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議においては毎月勉強会を行い、日々の業務に活かせるようにしています。現時点では外部勉強会に参加することが難しいため、ホーム内で各職員が持ち回りで講師となり、互いに学習できる機会としています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ町内に小規模多機能ホームがあり、交流だけでなく入居者の紹介もいただいています。またこのコロナ禍という問題の共有を、公立森町病院看護部提唱のもと、森町内の各施設が意見交換する場の提供があり、問題共有しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	より施設の見守り時に不安や要望などを確認し、把握した上で入居申し込みや事前訪問を行い、入居環境を整えるようにしています。コロナ禍であり以前のように自由に施設内に入ることが出来ない状況であるため、できるだけ本人や家族・関係施設と情報を共有し、対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろんですが、家族はどう考えているのか、どうしたいのか、心配や不安、要望等を傾聴し、対応するようにします。現状では実際に施設内に入って生活を見ていただくことが難しいため、出来るだけコミュニケーションをとり、施設生活に馴染んでいただけるような援助につなげています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・ケアマネ・病院職員・支援員・利用施設職員らと連携を図り、情報収集した上で入居判定会を行い、職員間でも検討しながら対応の仕方を見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームであるため、入居者の残存機能を生かし、その方ができることはやっていたりするようにしています。各入居者に見合った役割分担を誘導し、職員と一緒に生活する『家族』のような関係で、見守りながら生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と、入居後も以前からの関係性を継続できるようにしています。面会制限はあるものの発熱や体調不良等がないようであれば、家族の希望があれば面会は短時間ですが実施しています。家族来所時は面会がなくとも必ず情報交換・コミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各入居者の思い出話や、過去の話は傾聴するようにしています。現在はコロナ禍であり自由にならないこともありますが、できるだけ安全を確認した上で面会の場を設けたり、電話・ビデオ通話等を活用し、関係が途切れないように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当ホームは2ユニットですが、互いのユニット間を自由に行き来できる構造となっているため、ユニットを越えての入居者間の関係性があります。入居者が自由に空間を利用し、孤立することなく過ごされています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの入居者の方は看取りまで対応させていただいています。看取りでの退去の場合はデスクカンファレンスを行い、残された家族へ職員からのメッセージを届けています。ただ、この一年は入居者の体調が安定しており、看取りがなく経過しました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症であることを踏まえて、入居者一人ひとりの思いや希望・意向は訴えがあった場合だけでなく、雰囲気やしぐさ、何か訴えがありそうな場合は時間をかけて対応し、聴きとるようにします。必要時カンファレンスを行い、情報共有し対応します。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や経過・人物像等の情報を収集し、職員間で共有します。随時カンファレンスにて周知し、対応するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にはどのような生活をしていたのか、それを踏まえて当ホームではどう過ごされるのが心地良いのか、検討します。生活状況を介護記録に残し、またカンファレンスにて職員間で共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の訴えや生活状況・家族の意見や希望をアセスメントし、カンファレンスを行いその時に合った介護計画を立案しています。運営推進会議は開催できず家族が出席する会議の場はありませんが、来所時や電話において、家族の意見を必ず聞くようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の身体的・精神的状況や様子・状態、生活状況を介護記録として残しており、その情報も含めカンファレンスを行いながら介護計画を見直し、日々のケアを実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、予定外のことであったとしてもできるだけ希望に沿った対応をするよう心掛けています。食事の場所を変更したり、ドライブに出かけたり、イベント開催など、コロナ対策をしながら対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではありますが、近隣住民の方やボランティアさん、地域役員の方とは最低限の情報交換をし、コミュニケーションを図っています。ボランティアさんは季節ごとに畑の手入れをして下さり、収穫を調理して入居者に提供するなど、助けていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係が築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	公立森町病院の院長が主治医となり、月に一度の定期訪問診療を行っています。急な体調の変化や怪我等に関しては、病院の在宅医療支援室職員が対応してくれ、必要時に臨時往診や病院受診がスムーズにできる体制は変わっていません。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるため、介護職員と連携し病状管理や状態変化に対応しています。24時間体制で電話待機しており、必要時病院へ連絡し、協力を依頼します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前より森町病院と情報交換を行っており、入院が決定した場合は在宅医療支援室職員と連携し、情報伝達を行います。入院後も病院と情報交換を継続し、面談にも参加させていただきます。早期退院となるよう調整します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に『重症化に係る指針』を説明し、入居後初めての定期訪問診療には基本的に家族に同席してもらい、急変時の対応や看取り希望等について医師と共に確認します。状態変化に応じて希望も変化する場合があるため、随時対応します。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に関しては、事故報告書や介護記録をもとに事例検討を行います。いざという時に職員が何があってもできるだけ落ち着いて対応できるよう、実践能力が発揮できるよう、勉強会も行います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練において、防火・防災・水害訓練を行い、避難する体制を職員と入居者共に確認し、身につけるようにします。実践だけでなく、様々な状況が想定できる机上訓練も行うようにしました。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても、入居者一人ひとりの人格を尊重することは基本であり、どのような症状があっても、尊厳を守る必要があるということをお忘れず、言葉遣いや態度に気をつけるよう、職員に定期的に周知しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの気持ち・思いや考え方を尊重し、表出していただけるような状況となるよう、心掛けています。職員が決定するのではなく、できるだけ本人が自己決定できるように生活支援をします。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月間予定や週間・一日の予定はありますが、状況や状態により、無理強いすることなく本人のペースで生活していただけるよう『臨機応変に対応』ということを基本にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みや趣味を把握し、髪形や化粧品、服装などできるだけ本人の趣向に沿えるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	生活上の一番の楽しみともいえる食事は、職員も検食を行い、味についての意見を業者に発信しています。味や食材の好みには可能な限り個々に対応します。準備・片付けはできる入居者と職員が一緒に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理や検査データを踏まえ、同じメニュー提供でも個々に対応するようにしています。特に食欲減退時は、可能な限り常識にとらわれず食べたいもの、食べられるものを提供し、栄養管理につなげています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚染は、肺炎や心疾患等の疾病につながる危険もあるため、毎食後口腔ケアを行っています。森町病院口腔外科や、開業医とも連携しているため、必要時は訪問診療を依頼し、口腔ケアに努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後の排泄状況を把握することが基本であり、排泄パターンや回数・量をチェックし、トイレで自力排泄ができるよう、例えば一見排泄に繋がらない情報でも、関連付けて検討するようにします。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の処方のみならず、乳製品やオリーブオイル、オリゴ糖など、自然に排便ができるよう対応しています。便秘薬についても薬剤師と相談し、個々に合わせた処方してもらいます。また全身運動をレクリエーションに取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては、予定は組みますがあくまでも予定であり、入居者本人の希望を優先して対応しています。現在入浴拒否の方はいませんが、時には違うユニットの浴室で入浴するなど、気分転換も考慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の予定はあるものの、一人ひとり生活リズムが違うため、就寝・起床・食事等、強制はせずそれぞれのペースに合わせています。眠れない方は職員と一緒にお茶をしたり、夜食や間食にラーメンを提供するなど、臨機応変に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	森町病院の薬剤師が訪問薬剤指導に入ってくれており、医師・薬剤師の指導のもと、管理しています。体調の変化があればすぐに連絡し、医師に指示確認してもらうなど、連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や食事の準備・後片付け、お盆拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑仕事など、各入居者の得意分野を活かして引き続き役割分担を行っています。やりがいを感じ、楽しみや役割として実感していただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時はテラスや玄関先に出る機会を持ち、外気に触れていただきます。安全を考慮した上での外出は、その時々で楽しめる場所を調べ、感染対策の上でドライブなどに出掛けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりにおいて小口現金を預かり、管理しています。外出して買い物ということが現状は難しいのですが、可能になれば以前のように個別に外食や買い物に出掛ける支援をしたいと思っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話についてはもともと適宜希望があれば対応していましたが、コロナ禍で特に他県の家族が面会できない状況もあり、以前より増えています。可能な方はビデオ通話も対応します。家族からのお手紙も届き、入居者は喜ばれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員目線ではなく、入居者や家族の意見を取り入れるようにしています。例えば電気も全部点けるのではなく、明るすぎないように配慮して点ける、非常灯が不快な入居者には職員が見える程度に隠すなど工夫し、リラックスできるよう心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの共通スペースで共同で過ごす時間が多いです。ホールが広めであるため、仲の良い方たちが話をしたり、ある人はテレビを見たり、ぬり絵をしたり、カルタをしたり、また自室で昼寝をするなど、自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれが使い慣れた馴染みのものを持参され、ホームでの生活が違和感のないようにしています。クリスチャンの方の居室には、現在コロナ禍で教会に行くことが出来ませんが、常に枕元に聖書が置かれています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者はそれぞれ理解度に差があるため、場所の表記をしたり、職員が誘導する、また目印を付けるなどし、できるだけ不安の無いようにしています。無駄なものは排除し、安全に生活できる場を心掛けています。		